

原発再稼働阻止 全国ネットワーク ニュース



ニュース 28 号
2025年
3月1日

発行
再稼働阻止
全国ネットワーク

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-3-1 TKiビル3Fたんぽぽ舎気付

第 7 次エネルギー基本計画 閣議決定

原発「最大限活用」、核燃サイクル推進を 掲げる原子力政策に反撃しよう!

原発「最大限活用」への転換

石破内閣は第 7 次エネルギー基本計画（以下「基本計画」と略）を閣議決定した。

政府は福島第一原発事故の教訓として 2014 年の第 4 次エネルギー基本計画から 2021 年の第 6 次エネルギー基本計画まで原発依存を「可能な限り低減」するとしてきた。しかし今回の「基本計画」は従来掲げられて来た「可能な限り低減」の文言を削り、代わって原発を「最大限活用する」と明記し原発回帰の方向性を明確にした。

電源構成「原発 2 割」は無謀な計画

「基本計画」は、2040 年度の電源構成で原発を 2 割としている。この比率自体は前回の第 6 次エネルギー基本計画に比べ増えてはいない。しかしこれは、東電柏崎刈羽 1～7 号機や、原子力規制委員会が不許可にした日本原電敦賀 2 号機の再稼働に加え、建設中の大間原発や東電東通原発などの完成が必要になる規模である。大間原発はフル MOX 運転を予定し「世界一危険な原発」と呼ばれる。さらに 40 年超の長期運転の常態化も見込まれ、老朽原発運転に伴うリスクが高まる。このような無謀な計画は到底容認できるものではない。

新增設に向けた市民負担増の企み

「基本計画」は「廃炉を決定した原子力発電所を有する事業者の原子力発電所のサイト内での次世代革新炉への建て替えを対象として…具体化を進



昨年 9 月 24 日、核燃料搬出に抗議する新潟県民
柏崎刈羽原発 荒浜にて

めていく」と書き、建て替えの要件を緩め、新增設を容認している。しかし原発の建設コストは高騰している。経済産業省の最近の試算では出力 120 万キロワットの原発 1 基当たりの建設費を 6,169 億円と見込む。しかし海外ではフランスで建設中のフラマンビル原発 3 号機のように、建設コストが当初見積り通りの 4 倍にも膨れ上がり 2 兆円に上る例もある。このような背景から「基本計画」は、大型電源について投資額が巨額になることなどから事業者が新たな投資を躊躇する恐れがあるとし、電力分野における必要な投資資金を安定的に確保していくためのファイナンス環境の整備に取り組むとしている。これは、原発の新設に際して、建設期間中から電気代にコストを上乗せして一般市民から徴収するイギリスの RAB モデルのような制度の新設を目論んでいるものと思われる。このような姑息な企みを許してはならない。〈次頁へ続く〉

変わらぬ核燃サイクル推進

「基本計画」はまた核燃料サイクルを「必ず成し遂げるべき重要課題」として推進するとしている。しかし核燃料サイクルはすでに破綻している。六ヶ所再処理工場は 27 回も工事完成が延期され稼働が見通せない上、事業費は 15 兆 1,000 億円に膨れ上がり今後も上昇を続けていくとみられる。仮に稼働したとすれば、すでに老朽化しているため安全運転は望めない上、大量の放射性物質を放出し深刻な環境汚染を引き起こす。取り出されるプルトニウムについては、プルスーマルで消費できる量はごくわずかであり、使用済み MOX 燃料の処理もできない。このように有害無益な核燃料サイクルは即時中止すべきである。

原発は S+3E に最も反する

「基本計画」ではエネルギー政策の基本的原則として S+3E を掲げている。それは「安全性の確保 (Safety)」「エネルギー安定供給 (Energy Security)」「経済効率性 (Economic Efficiency)」「環境適合性 (Environment)」の 4 つである。原発はこれら 4 原則いずれに照らしても劣った発電手段だと言わなければならない。燃料を全量輸入に頼り自然災害に最も脆弱な原発が「エネルギー安定供給」に資するはずはなく、一般市民への新たな負担増を図らなければ新增設の資金を捻出できない原発が「経済効率性」にかなう道理もない。何より原発は最大・最悪の環境破壊であり、「安全性」「環境適合性」に真っ向から反している。S+3E の原則に立てば、原発を即時廃絶するのが最良の選択である。

エネルギー基本計画-原発推進路線に反撃しよう

福島原発事故から 14 年経つ今、事故によって生じたデブリ 880 トンのうちわずか 0.7 グラムしか取り出せておらず、東京 23 区の半分に当たる土地が帰宅困難区域として残り、数万の人々がいまだ故郷に帰れずにいる。福島県内では小児甲状腺がんの患者が 400 人近く発見されている。フクシマは終わっていない。その状況の中策定された基本計画は、従来曲りなりにも掲げられてきた「原発依存度を可能な限り低減する」という文言をかなぐり捨て、原発推進に明確に舵を切った。私たちは「基本計画」に示された原発推進路線を断じて許してはならない。今後「基本計画」を実行に移させないための闘いを早急に具体化し、反撃して行こう。

3.31 美浜集会にご参加願います。

主催：老朽原発うごかすな！実行委員会

関電は 1997 年に「使用済み核燃料は福井県外に搬出する」と福井県知事に約束。

しかし、再処理工場の稼働は未だに見込みはありません。そのため関電も「福井県外搬出」の約束を繰り返し反故にしています。

関電の燃料プールはもうすぐ満杯になり、原発を停止せざるを得なくなるため「構内に乾式貯蔵施設の建設を検討する」としていますが、プールに空きを作ろうとする策略です。乾式貯蔵を許せば永久貯蔵になりかねません。

使用済み核燃料の行き場はありません。関電に約束通り老朽原発の停止を実行させ、使用済み核燃料の発生源・原発の全廃への突破口としましょう！



青森 2025 年 春の行動

屈辱の日「4・9 反核燃の日」全国集会に結集を

行動は次の通り。

4月5日(土) 11:30 から「4・9 反核燃の日」全国市民集会。

14:00 から第 40 回「4・9 反核燃の日」全国集会。

ともに開催は青森市文化会館。終了後、青森市内のデモに打って出る。

4月6日(日) 10:3~11:00、六ヶ所再処理工場門前抗議行動。

同日 11:30 から六ヶ所村内でデモ行進が行われる。





フクシマから 〈原発いらね！ふくしま女と仲間たち 黒田節子〉

大津漁協（茨城県）裁判を知っていますか？シラスの放射性物質の分析結果改ざん等を「公益通報」したことで不当解雇された男性二人に、東京高裁は1.24の判決で、解雇は無効、未払い賃金を払えとする判決を出したのです。当然ながらではありませんが、「司法はまだ生きていた」といえます。今後の推移を見守りつつ、全国の皆さんからもこの勇気ある漁協職員へのご支援をよろしくお願いします。



■14回目の3.11関連のご案内です。10日：Don't Killのサックス奏者MASAのライブを、須賀川市自然食レストラン「銀河のほとり」で16時～。11日：郡山市労働福祉会館13時～集会「原発事故は終わってない」を開催します。15：45～市内デモ行進。各地からご参加ください。

東電・柏崎刈羽原発再稼働ありえない! 〈長岡市 小木曾茂子〉

東京電力は、柏崎刈羽原発の使用済み核燃料828体を3年かけて、むつ市の中間貯蔵施設へ搬出するとしています。六ヶ所村再処理工場の稼働を前提とした計画です。資源エネ庁は昨年未から2月に、すでに再稼働に同意している現地市村を除く県内28市町村すべてで原発再稼働の必要性を説く住民説明会を開きました。

核のゴミ問題など触れることもありませんでした。10月下旬から2月にかけて私たちは「再稼働の是非を県民投票で決めよう」と県民投票条例制定署名の収集に全力で取り組んできました。有権者の12人に1人という15万票を超える署名を2月10日には市町村選管に提出しました。



4月臨時県議会での成立を全力で目指しています。

北海道の原子力関連問題 報告 〈ベクレルフリー北海道 マシオン恵美香〉

核ごみ最終処分地選定に係る「文献調査報告書」が昨年11月、寿都町、神恵内村、北海道の鈴木知事に提出され、本年2月19日（稚内）まで道内各地で22回「文献調査報告書説明会」が開催された。NUMOが募集している意見書の締め切は4月18日。

核燃料輸送用新港建設計画を示した北海道電力は「昨年9月に能登半島地震を踏まえ、泊原発の敷地全体が4m隆起した想定訓練で海水を取水できることを確認した」としている。泊原発が位置する積丹半島の海沿いにも地盤が隆起した地形があるなど知見が更新される中、北電の想定より長い海底活断層を推定する専門家もいる。北海道周辺の地震長期評価は未公表。



「女川原発の乾式貯蔵計画は認められない。3.23 さようなら原発宮城県民集会」

昨年、東北電力は女川原発2号機の再稼働に踏み切った。しかし、宮城県沖は地震の巣であり、避難計画は机上の空論だ。そして2号機の使用済み核燃料を原発敷地内に乾式貯蔵する計画では女川に保管し続けることになるのは必至だ。

こうした中「女川を核のゴミ捨て場にするな」をメインテーマに、3月23日「さようなら原発宮城県民集会」が仙台市元鍛冶丁公園において開催される。「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」の小木曾茂子さんに発言して頂く予定だ。女川原発が再稼働されても我々は黙っていないということを示す集会にしたいと思っています。



〈みやぎ脱原発・風の会 舘脇章宏〉



「3.22～23 若狭一斉チラシ配布（拡大アメモデモ）」で、原発廃炉を訴えよう！

「3.31 関電は約束まもれ！美浜集会」に結集を！約束を守らせ、老朽原発を止めよう！

関電は、再処理工場の稼働延期により、使用済み核燃料の福井県外搬出にかかる「ロードマップ」の見直しを迫られ、2月13日、「実効性のある見直しがあった」と福井県に示しましたが、またしても稼働の見込みもない再処理工場への搬出、フランスへの搬出量を倍増させるという詭弁、奇策です。福井県はこれを「実効性はない」として、老朽原発の停止を求めよ！関電は、当初の約束を守り、老朽原発を停止せよ！私たちはこの状況を、若狭の人々に「若狭一斉チラシ配布」で訴えます。「3.31 関電は約束まもれ！美浜集会」を開催し、関電を糾弾します。原発依存へと暴走する政府、電力会社を許してはなりません。



皆さんご参加ください。老朽原発うごかすな！実行委員会〈若狭の原発を考える会 橋田秀美〉

3月8日に「ストップ川内原発！3.8かごしまパレード」開催

鹿児島市で福島原発事故に合わせ3.8かごしまパレードを開く。その2週間前の2月21日には川内原発運転差し止め訴訟判決がある。ニュース発行時に結果は出ているが、勝訴・敗訴にかかわらず、鹿児島には多くの課題がある。



まず、川内3号機問題。第7次エネルギー基本計画案に、川内を狙い撃ちする「敷地外リプレイス」が掲げられた。次に、敷地内乾式貯蔵施設建設。使用済み燃料プールが2031年で満杯になる原発延命のための乾式貯蔵施設は到底認められない。月1回の街頭宣伝などで地元で継続的に声を上げ続け、全国の仲間とともに、川内原発の廃炉とともに、増設を阻止したい。

〔ニュース編集部注-21日、鹿児島地裁は2012年5月、3036人の原告が提訴した差止訴訟に「安全性に不合理的はない」とした不当判決を下した。〕
 〈3・11鹿児島実行委員会事務局長 杉谷健太〉

豪雪の八幡浜から伊方原発即刻廃炉を要請します 〈伊方から原発をなくす会 秦左子〉

2月4日、八幡浜市が大寒波に襲われ豪雪となり、高速道路も一般道路も封鎖されました。八幡浜市は伊方原発からの距離が5km圏内も含む町で、この町を迂回して伊方へ行く道も伊方から出る道もありません。このときに伊方原発で事故が起きれば、三崎半島の人たちも八幡浜の人たちも逃げ場を失い、救援もないなかで放射線を浴び続けるのです。



10km圏内の女性が言います。「私たちの命は軽視され、生きるという人権は侵害されている」と。私たちは現地の人たちとこの怒りと悲しみを共有する街宣を行ない、「即刻廃炉」を四国電力に要請致します。

玄海原発地元から 〈佐賀県唐津市 吉田恵子〉

政府は100マイクロシーベルト未満の被曝は健康影響は認められないとして、原発からのトリチウム流出、避難計画、放射性廃棄物処理、最終処分玄海町文献調査を進めている。最終処分も「放射性物質が漏れても年間最大2マイクロシーベルトに収まるから安全。」としている。しかし線量計で測れるのは透過力がある電磁波のγ線など。放射線は飛んだ先で原子の電子を吹き飛ばす。従って飛距離が長いγ線（電磁波）は体への影響は比較的少ない。それとは違い体内に入った放射性物質から出る飛距離が短いα線β線（粒子線）は近くのDNA等を損傷し、癌や障がいが発生させる。福島原発や各地の原発から放射性物質の流出が続き、癌等の病気や障がいが増大し続けている。

島根原発2号機再稼働は事故のもと！廃炉にすべし

島根原発2号機は、昨年12月7日に再稼働した。この日は、松江市でおよそ100人の市民による抗議集会を開催し、島根県内3つの町と鳥取県内の4つの町、また広島市内でも平和公園内、中国電力本社前で抗議のスタンディングを行った。

この原発は多くの活断層に囲まれ、能登半島同様に連動評価も適切に行われていない。複合災害が発生した際の避難に、多くの住民が不安を感じる中の再稼働だった。

その2号機では、2月20日に原子炉内の水素と酸素濃度を測定する機器に不具合が生じ、運転上の制限を逸脱すると判断される事態が生じた。中国電力は2系統のうち1系統は正常だから大丈夫と言うが、その感覚が事故を呼ぶのだ。早く廃炉にすべし！〈さよなら島根原発ネットワーク 芦原康江〉

浜岡 22-4+10=28 簡単な計算、でもそれで良いのか！

中部電力の林社長が昨年11月、防波壁を海拔28mに変更すると地元説明した。防波壁は18mの高さで完成(2012年)、その後4mの鋼鉄板を追加、土木学会賞《技術賞》を受賞したと中電は自慢した。2000億円も掛け、その拳句に鋼鉄板を撤去、10m分のかさ上げ工事をするという。大津波が襲来する原発が安全なわけがないだろう。

3月11日、静岡では浜岡原発の再稼働を許さない静岡県ネットワーク(県下の市民運動55団体が結集)が「311アクション」として県知事と中電静岡支店に要請・申し入れ、県平和センター等が集会・デモ行進、福島子ども基金が街頭募金活動を行う、私たち浜ネットも共同行動する。地震はとめられない、原発はとめられる、人の意思でとめられる。



浜岡原発の再稼働は絶対に認められない！！ 〈浜岡原発を考える静岡ネットワーク 沖 基幸〉

東京電力福島第一原発事故から14年、柏崎刈羽原発再稼働するな！汚染水とめろ！ 東海第二原発を廃炉へ！ 3.11 東電本店・原電本店前で抗議の声をあげよう！

防潮堤欠陥工事が発覚した東海第二原発。「新規制基準」審査資料を改ざんし再稼働しようとした敦賀2号機。ウソとデタラメだらけの日本原電、中央制御室・制御盤からの出火は、なんとヒューズ交換時のヒューマンエラー。設備も運転員も劣化している日本原電に原発を動かす資格はない。

ましてや、3.11事故以来、1kwも発電していない原電に1兆数千億円のお金(私たちの電気料金)をつぎ込んだ電力5社、とりわけ東京電力が被害者を切り捨て、柏崎刈羽原発を再稼働することは許されない。

3月11日、私たちは原電本店(16:30~)、東電本店(18:45~)連続行動で抗議の声を上げる。〈再稼働阻止全国ネットワーク東京事務局 沼倉潤〉



2025年春の青森 3月~4月連続行動 〈核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 中道雅史〉

岸田GXを引き継いだ第7次エネルギー基本計画が閣議決定された。私たちはしっかりと構えて行かなければならない。3月9日には「2025 さよなら原発・核燃3・11 青森集会」12:30開始、青森市文化会館5階大会議室。小出裕章さんの特別講演「六ヶ所再処理工場の被曝と福島原発放射能汚染水」があり、集会終了後、青森市内デモと県庁包囲行動。4月5日(土)11:30から「4・9反核燃の日」全国市民集会。14:00から第40回「4・9反核燃の日」全国集会が開催される。

1995年4月26日、フランスからの返還高レベル放射性廃棄物が六ヶ所核燃サイクル施設に搬入された。(その後、イギリスからも含め続々と運び込まれ「一時貯蔵」されている。)それから30年。約束では、搬入してから30年から50年の間に、施設外に運び出さなければならない。協定がある。行先の「最終処分場」は何処にあるというのだ！ その日をとらえ返し、全国に声高らかに訴えるために、断固として六ヶ所現地で行動を起こす。それが30年たった2025年4月26日(土)。 結集を！

**【ネット署名】 深刻な原発事故を起こした東京電力による柏崎刈羽原発の再稼働を許すな！ に
全国の声を結集しよう**

再稼働阻止全国ネットワーク東京事務局 木村雅英

◆事故が起こらなくても原発は稼働してはいけない

3. 11 事故後に全国の反原発運動を結集してできた再稼働阻止全国ネットワークは、九州の川内原発から若狭・四国・北海道・中国・東北の再稼働阻止に取り組んできたが、既に14基の原発が原子力規制委員会の許可を受け稼働している。

3. 11 直後の3月中に「東電をつぶさず原発を残す」方針を立てた経産省（資源エネルギー庁）の企みが成功し、GX 推進と第7次エネルギー基本計画で原発生き残りを画策し、いよいよ3. 11 事故を起こした東電の柏崎刈羽原発の再稼働で総仕上げ、3. 11 事故以前の状況に戻そうとしている。

「事故は必ず起こる」と主張し続けるとともに、原発が核分裂を起こしてお湯を沸かし「死の灰」を生み出す愚かで危険な地球環境破壊装置であることを強調し、再稼働阻止の声を上げ続けたいといけない。

◆ネット署名と院内ヒアリング集会

原子カムラの総仕上げを阻止するべく、2024年12月からネット署名「深刻な原発事故を起こした東京電力による柏崎刈羽原発の再稼働を許すな」を開始し、既に1万3千筆の署名をいただき、更に事故から14年目を迎える3月の末日まで署名を募集している。

また、1月21日（火）には院内ヒアリング集会「東京電力に原発を動かす資格があるのか？～柏崎刈羽原発の再稼働問題を考える～」を実施し、原子力規制庁に能登半島地震を受けた政府地震本部の発表から柏崎刈羽再稼働は許されないこと、東電に原発を動かす資格が無いことを訴えた。

次のUPLANの動画を是非ご覧いただきたい。

=>UPLAN 事前集会 <https://www.youtube.com/watch?v=t0Mqgg-NO9w>

ヒアリング <https://www.youtube.com/watch?v=MxPHlgNIvME>

◆ネット署名に全国の反原発運動を結集しよう

【ネット署名】 深刻な原発事故を起こした東京電力による柏崎刈羽原発の再稼働を許すな

<https://chnng.it/hdF9YZcPgG> には、全国の再稼働阻止全国ネットワークの方が署名していただいている。3月末日まで一層の拡散を、特に SNS を活用する若者への訴えをお願いします。

《再稼働阻止全国ネットワークからのお知らせ》

「第30回再稼働阻止ネット全国相談会」のご案内

期日：4月12日(土) 17:30～19:40

*全国各地からの報告

4月13日(日) 9:00～15:00

*第7次エネルギー基本計画に抗する方針協議

場所：貸会議室 内海（東京学院ビル）

千代田区神田三崎町3-6-15 JR水道橋駅2分

(たんぼ舎新事務所近く)

2012年に全国原発現地で活動してきた皆さんと全国ネットワークを結成して以来13年目を迎える今、再び放射能惨禍の悪夢が訪れる重大な危機が進行しています。再稼働阻止全国ネットは全国各地の運動を一步でも前に進める討論を来たる「第30回全国相談会」にて行いたいと思います。皆さまの熱い思いを具体的な行動方針として確立する討論にご参加願います。

Zoom 参加ご希望の方は下記まで問い合わせ願います。 問い合わせ先：080-1012-4661（事務局 沼倉）

「核燃料サイクルを考えるシンポジウム」

4月12日(土) 13:30～16:30

会場：日本教育会館 大ホール(800名)

最寄り駅一地下鉄神保町駅

主催：シンポジウム実行委員会

実行委団体〔さようなら原発1000万人アクション/原水禁/原子力資料情報室など〕

*資料代 1000円

第1部 問題提起

鈴木達治郎さん

澤井正子さん

第2部

パネルディスカッション

連絡先

原水禁

03-5289-8224

原子力資料情報室

03-6821-3211

